九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

MBAプログラムの競争力向上への取組

山本, 健兒
九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻

https://hdl.handle.net/2324/19896

出版情報：2011-06-30. 九州大学高等教育機構教育改革企画支援室
バージョン：
権利関係：

平成22年度　教育の質向上支援プログラム（EEP）実績報告書

部局名	経済学府
申請者（部局長）	経済学府長　山本健兒
1．取組の名称	M B A プ ロ グ ラ ム の 競 争 力 向 上 へ の 取 組 （副題）ビジネス教育の持続的質向上基盤の充実と、評価PDCAの構築

2．取組実施担当者

氏　名（ふりがな）	担当学府・学部・職名	現在の専門	役割分担
村藤　功（むらふじ いさお）	経済学府・教授	企業財務	代表者
出頭　則行（しゅっとう のりゆき）	経済学府・教授	マーケティング	教育態勢調査主管
永田　晃也（ながた あきや）	経済学府・教授	イノベーションマネジメント 知識マネジメント	教育評価主管
高田　仁（たかた めぐみ）	経済学府・准教授	産学連携マネジメント 技術移転、技術経営	教育訓練・開発主管

3．実施・評価・改善のための組織体制の活動状況

（取組計画書の「実施・評価・改善のための組織体制」を転記のこと。）

EEPの取組について、毎年、専攻運営会議で議論の上、年度計画に盛り込み、達成状況を相互に点検の上、「外部評価委員会」で説明を行う。未達事項などは、年度計画の実績報告に反映し、事由を含めて専攻で議論し、引き続き遂行する。これをPDCAサイクルで詳細整理すると、次の通りである。

①**PLAN**：QBS専攻運営会議（学府長及び評議員も参加）において、取組に関する計画を議論し、アクションプランを設置する。同プランの骨子は、毎年の年度計画に入れる。
②**DO**：QBS専任教員全員が、アクションプランに沿って、「教員各自」and/or「ワーキンググループ（仮称）」がタスクを遂行する。
③**CHECK**：アクションプランの達成状況については、専攻運営会議（毎月適宜）において確認の上、「外部評価委員会」に説明を行う。又、毎年の年度計画の実績報告において、達成状況を明示する。
④**ACT**：改善が必要な点、未達成点については、未達理由などを専攻運営会議にて議論した上で、「教員各自」and/or「ワーキンググループ」がタスクを遂行する。

活動状況（会議等の開催日、検討内容等）

EEPの取り組みにおける「実施、評価、改善」状況の点検については、下記の通り実施した。
①毎月1回（適宜）のQBS執行部会議において、計画書に基づき、各タスク担当教員、グループに進捗状況を随時確認、把握した。
②そのうえで、毎月開催（適宜）のQBS専攻運営会議（学府長および評議委員も参加）において、QBS執行部より、タスク達成状況、未達タスク状況、修正スケジュールなど随時報告、議論した。
③上記QBS執行部会議および専攻運営会議において確認された取組状況については2011年4月9日、「外部評価委員会」において説明をおこなった。
なお、具体的な会議開催日、検討内容などは以下のとおり。
①4月4日外部評価委員会
・2009年度取組実績報告、2010年度取組概要説明
②4月7日専攻運営会議
・2010年度取組項目の確認、承認
③5月6日執行部会議
・各取組の進捗状況確認
④5月12日専攻運営会議
・取組(力量点検ツール)内容説明・承認
⑤6月2日執行部会議
・各取組進捗状況確認
⑥6月9日専攻運営会議
・取組（教材開発：エッセンシャルズ）内容説明・承認
⑦7月14日、9月3日専攻運営会議
・各取組進捗状況報告
⑧11月10日専攻運営会議
・2010年度全取組活動状況報告

（①部局名：経済学府　②取組名：　MBAプログラムの競争力向上への取組　）【平成21年度採択・事後】

	⑨1月12日、2月9日、3月2日専攻運営会議 ・力量点検ツール試行説明 ⑩その他随時開催 ・各取組ワーキンググループ会議

4．取組に係る具体的な成果
（教員の意識向上等取組の波及効果等）

「経済学府産業マネジメント専攻（専門職大学院課程）」（通称：九州大学ビジネススクール～QBS、以下「QBS」という）は、2003年4月発足当初から、多くの応募者を獲得してきた。また、QBSは、①「国際戦略デザイン研究所」（本部：日本）による日本のBSランキングにおいて総合第1位（2008年）、②「eduniversal」（本部：フランス）による国別BSランキング第17位（2008年Excellent Business Schoolに認定）、③学生からの修了時アンケート調査で二年間の教育満足度が90%超、④2008年度に実施された大学基準協会の認証評価においても、高い評価を得ていること等に裏付けられる如く、日本全国に170専攻以上存在するビジネススクール(注1)のなかで、現在、QBSの教育態勢はわが国のBSの中でも上位に位置するものと考えられる。

一方、QBSの伝統的応募者である「北部九州圏の若手社会人」「東アジアの留学生」の市場には、欧米の一流BS、中国のBS、内外の通信制BSなどが触手を伸ばしてきている上、国内の一流ビジネススクールが福岡に分校を設置することなども充分にありうる状況となっている。係る競争に生き残るためには、QBSが競争相手を上回る教育上の「魅力」を持ち、「高い力量」を持った優秀な学生を輩出し続け、修了生が社会に歓迎され続ける状態を継続的に作り出す必要がある。

QBSがEEPに応募した目的は、QBSのMBA教育プログラムの更なる高度化による競争力確保のためであり、具体的施策として、①「BSの競争力に関する各種調査」②「高い教育水準を確保するための教員訓練基盤設置」③「教育ベストプラクティスの開発」④「教育の質及び学生の力量点検基準設置」の4つに焦点を当てた。

(注1)BSを称する経営・商学・ファイナンス系大学院修士課程及び専門職大学院課程の専攻数。出所：経済産業省。

【取組の内容】

1.<u>「BSの競争力に関する各種調査」</u>

国内外のビジネススクールの「教育態勢」「競争力強化策」「拡充戦略」などについて調査をおこなった。調査の視点は「QBSは国際的にどのレベルにあるか」「QBSに足りない点は無いか」「QBSが生き残るための戦略シナリオに障害はないか」などの点である。

具体的な取組として、①内外の認証評価機関との意見交換②先端的教育実施校との意見交換、③特色を有するビジネススクールとの意見交換、④MOT（技術経営）教育に係る調査、⑤アジア・ビジネス教育に係る調査をおこなった。

【具体的取組項目】
・「内外の認証評価機関、先端的教育実施校。特色を有するビジネススクールとの意見交換」
2009年12月より2010年3月、国内外にて調査および意見交換を下記の通りおこなった。
（認証評価機関）
ブリュッセル認証機関
（北米8大学）
MIT、Sloan、Duke、UNC、Boston、Babson、USCD、Colombia、Thunderbird
（欧州　2大学）
EMS、INSEAD
（国内　1大学）
小樽商科大学ビジネススクール
・「MOT（技術経営）に係る教育交流」
MOT協議会主催研究会「コアカリキュラム事業推進会議に2009年度3回に亘り教員が参加、社会におけるMOT教育の浸透、専門職大学院における品質保証の諸問題について、他参加校と意見交換をおこなった。
・「アジアのBSとの教育交流」
2009年8月、9月および2010年2月末、3月末、中国・大連理工大学、南京大学、上海交通大学の教員と

BS教育の質、国際競争力、成長状況について調査、意見交換を実施した。

【成果】

内外の認証評価機関、先端的教育実施校および特色を有するBS等の調査、意見交換を通して、QBSにおける提供プログラムの品質と成果の保証、修了生の力量評価に対する客観的な評価基準の必要性が改めて認識された。この取組における調査結果は、「教育の質及び学生の力量点検基準設置」に向けての基本的考え方に活かされた。

2.「高い教育水準を確保するための教員訓練基盤設置」

上記の各種調査に加え、国内外のビジネス教育情報を入手分析し、QBSが不足している部分や競争力を低下させる可能性のある項目について、「カリキュラム」「教育方法」「教材」「教育プログラム管理」などの観点から検証し、具体的改善施策を実施した。

具体的な取組として、①実務に耐えうる教育内容の開発と実践、②新教育メソッドの試行、③教育方法習得のための教員派遣である。

【具体的取組項目】

・「産業界ヒアリング」

Executiveプログラム開設計画に係る事前調査として九州北部地域の産業界にヒアリングを実施した（2010年3月末までに33社訪問ヒアリング実施）。

・「短期エグゼクティブプログラム」および「次世代経営者育成プログラム」の計画・実施

上記産業界ヒアリングをもとに2010年11月21日より約3ヵ月間にわたって、大企業幹部及び幹部候補生向け「短期エグゼクティブプログラム」を開講した。また、中小企業の次世代幹部向け「次世代経営者育成プログラム」は、2011年5月下旬開講予定である。

・「新教育メソッドの試行」

ビジネスシミュレーションソフト「CapitalismⅡ」の教育導入の為のソフト内容、稼働状況のチェックをおこなったうえで、QBS在籍学生に対して試行、トレーニングをおこなった。

・「教育方法習得のための教員派遣」

2009年8月カナダ・ウエスタン・オンタリオ大ビジネススクールにおける短期教員講習（ケース・ティーチング研修）参加教員による教育手法調査をおこなった。

【成果】

九州北部地域の産業界のヒアリングを実施、そこで得たQBSへのニーズ分析の結果を踏まえ、大企業幹部および幹部「短期エグゼクティブプログラム」の企画、実施した。また「次世代経営者育成プログラム」も2011年5月下旬開講が決定した。

「短期エグゼクティブプログラム」については、QBS初の試みながらトヨタ自動車九州、九州電力、コカコーラウェストなど九州を代表する企業幹部、幹部候補生など20名の参加を得、約3カ月のプログラムを滞りなく実行された。本プログラムにおける講師陣はQBS所属教員で構成され、①実務に耐えうる教育内容の開発と実践、②新教育メソッドの試行、③教育方法習得という本プログラムの初期目的を達成したと考えられ、本プログラム成果のMBAコースへの適用に取り組む予定である。

3.「教育ベストプラクティスの開発」

ビジネススクールとしての競争力確保の観点から、教材や教育方法に関するベストプラクティスが提供できているかを意識するとともに、QBSが力点を置く「アジア・ビジネス」と「MOT」についても、現実に即し、かつ先端的な理論を提供しているかを常時把握し自己評価することが欠かせない。具体的取組として、①アジア・ビジネス教育の先端的教育調査・交流②教材開発、③QBS紹介DVD制作をおこなった。

【具体的取組項目】

・「アジア・ビジネス教育の先端的教育調査・交流（ICABEの充実）」

2009年8月大連理工大学、2009年2月上海交通大学、2010年8月KAIST、2011年3月シンガポール国立大学をQBS教員および学生が訪問し、「アジア・ビジネス」関連の研究交流を行った。

また、2010年3月3－5日、中国・提携校を訪問、アジア・ビジネス教育についての調査、意見交換をおこなった。3月23、24日、QBSにて大連理工大学、上海交通大学教員との教育研究交流をおこなった。

（①部局名：経済学府　②取組名：　MBAプログラムの競争力向上への取組　）【平成21年度採択・事後】

・「教材開発」
　2010年度QBS教員による「ケース」を中心とした教材（QBSエッセンシャルズ）開発をおこなった。
・「QBS紹介DVD制作」
　2010年度QBSを歴史的、体系的に、さらにはQBSを取り巻く環境などを紹介したツールを制作した。

【成果】
　本プログラムについては、ICABEによるアジア提携大学の教員・学生との研究・交流を通して教員がアジアにおけるビジネス教育の現場に触れること、さらには、QBSにおけるベストプラクティスの提供と自己評価の基準作りに役立ったと考える。
　「教材開発」については、2011年3月QBS専任教員を中心としてQBS独自の教材（QBSエッセンシャルズ）を開発した。QBSエッセンシャルズは、QBSでの講義を紙上で展開したものであり、QBS講義の一端を体験できる構成となっており、在校生のみならずQBS入学希望者、企業の人事教育担当者など広くプロモーションツールとしての利用価値が高いと考える。
　また、QBSには歴史的、体系的に、さらにはQBSを取り巻く環境を描いたツールがなかったが、今次本プログラムによってそれらを包括的に紹介する「QBS紹介DVD」を制作した。このようなDVDを制作、情報の可視化整備をおこなったことは、QBSエッセンシャルズと同様、在校生のQBS認識度の向上、QBS入学希望者、海外提携校からの留学希望者等へのプロモーションツールとしての有効性は高いと考える。

4.「教育の質及び学生の力量点検基準設置」

　「MBAの力量評価」と「教育の質向上態勢」は不可分の関係であるため、力量・教育の統合的一貫評価システムが自立的かつ継続的に機能するための態勢作りを行う必要がある。具体的施策は、①力量要素とカリキュラム体系の適合性点検のための実務家との検討会の開催、②授業の評価・改善システム構築、③評価システムの試験的実施、などである。

【具体的取組項目】
・「力量要素とカリキュラム体系の適合性点検のための実務家との検討会開催」
・「授業の評価・改善システム構築」および「評価システムの試験的実施」
　産業界へのヒアリングとともに、2010年2月にQBS各年次修了生、在校生に対しグループインタビューを実施し、カリキュラム、QBS修了生の力量などについて意見聴取した。2009年11月および2010年10月の2回にわたり、QBSの認知度、評価の為のインターネットアンケートを九州地区ビジネスパーソン対象に実施した。
・授業の評価・改善システム構築」および「評価システムの試験的実施」
　上記インタビューとインターネットアンケート調査の内容分析を実施、「授業の評価・改善システム構築」および「評価システムの試験的実施」に向けての点検、試行準備作業を行った。

【成果】
　上記各種ヒアリングおよび分析などの基礎作業を経て「QBS学生力量点検・評価ツールーペンタゴンチャート」を開発した。この「QBS学生力量点検・評価ツールーペンタゴンチャート」は、在校生の修学目的や終了後のキャリア形成に有効な知識、能力習得とそのための科目履修の参考とし、教員によるカウンセリングアドバイスの資料としても活用できるものである。学生データは、入学前における「知識・能力習得に関する確認」から前期、後期の履修成績、海外短期留学、海外提携校の学生との交流など課外活動参加など、2年修了時まで広範囲かつ累積的にデータ更新される。これによって学生の修学目標・方向性と実績が可視化され、担当教員のカウンセリングとコミュニケーションの容易性を実現したと考える。この「QBS学生力量点検・評価ツールーペンタゴンチャート」は、2011年4月度入学生（QBS9期生）を対象として試行（知識・能力習得に関する確認など2010年3月より一部実施済み）している。